

研究所彙報

一 二〇一八年度研究所・所員リスト

- 教授 市野澤 潤 平 (文化人類学)
- 教授 今 林 直 樹 (社会学・政治学)
- 准教授 木 村 春 美 (第二言語習得・英語教育)
- 教 授 九 里 順 子 (日本近代文学)
- 准教授 栗 原 健 (宗教学・近世ドイツ史)
- 准教授 間 瀬 幸 江 (フランス文学・演劇)
- 教 授 松 浦 光 和 (心理学)
- 教 授 宮 原 育 子 (地理学・地域資源論・観光まちづくり)
- 教 授 森 雅 彦 (西洋美術史)
- 教 授 J. F. モリス (日本文化論)
- 教 授 清 水 禎 文 (教育学)
- 教 授 新 免 貢 (宗教学)
- 准教授 杉 井 信 (社会人類学)

- 教授 田中一裕 (生態学)
- 教授 天童睦子 (女性学)
- 教授 土屋純 (地理学)
- 教授 豊澤弘伸 (国語教育)
- 教授 八木祐子 (文化人類学)
- 教授 吉村典子 (西洋建築デザイン史)
- 客員研究員 阿部隆 (宮城学院女子大学名誉教授・人文地理学)
- 客員研究員 井上研一郎 (宮城学院女子大学名誉教授・近世美術史)
- 客員研究員 岩川亮 (元宮城学院女子大学准教授・フランス語学・文学)
- 客員研究員 遠藤みどり (日本学術振興会特別研究員・日本古代史)
- 客員研究員 犬飼公之 (宮城学院女子大学名誉教授・古代文学)
- 客員研究員 大石泰夫 (盛岡大学教授・日本古代文学)
- 客員研究員 大迫章史 (仙台白百合女子大学准教授・近代日本高等教育史・近代日本教育制度史・教育行政学)
- 客員研究員 折笠芽衣 (地方公務員・社会主義期ポーランドの美術と政治)
- 客員研究員 片瀬一男 (東北学院大学教授・教育社会学・計量歴史社会学)
- 客員研究員 菊池勇夫 (宮城学院女子大学名誉教授・日本近世史)

客員 木曾 恵子（東北学院大学および宮城学院女子大学非常勤講師・文化人類学・タイ地域研究・ジ
研究員

エンダー研究

客員 後藤 純子（元大阪市立大学文学部助教授・インド学・宗教学）

客員 後藤 久太郎（宮城学院女子大学名誉教授・建築史）

客員 富永 智津子（元宮城学院女子大学教授・東アフリカ・インド洋地域近現代史）

客員 早坂 優子（多賀城市教育委員会事務局文化財課調査普及係・民俗学）

客員 丸山 仁（宮城学院中学校・高等学校教諭・日本中世史）

客員 安田 容子（東北大学災害科学国際研究所助教・生き物文化誌〈人と動物の関係史〉・日本近世

美術史〈地方文人・画人研究〉

二 共同研究について

本年度の共同研究のテーマは次の通りである。

「南島における民族と宗教」

「多民族社会における宗教と文化」

「キリスト教文化の受容と変容」

共同研究の成果として、次の冊子が刊行された。

『沖繩研究ノート』28

『多民族社会における宗教と文化』No.22

三 二〇一八年度研究所活動報告

公開シンポジウム

二〇一八年一月二四日(土) 午前一〇時三〇分～午後一二時三〇分(≪本学講義館C二〇二教室)

「東北における女子ミッション教育の社会史」

講演「ミッション系女学校の教養文化」

講師 稲垣恭子(京都在大学院教授)

研究報告「女子ミッション教育の戦後史―宮城学院の事例から―」

報告者 片瀬一男(東北学院大学教授/女子ミッション教育史研究会代表)

コメンテーター 宮城学院同窓生

主催 本学

共催 女子ミッション教育史研究会、本研究所

後援 宮城学院同窓会

二〇一九年一月二一日(金) 午後三時～午後六時(≪本学講義館C六〇二教室)

「声を聴く 声をしるす―二二世紀教養教育考―」

【「古文書」に聴く】

講師 菊池勇夫(本学名誉教授)

【「ことばの教師」に聴く】

講師 今 中 舞衣子（大阪産業大学准教授）

【「子ども」に聴く】

講師 安 部 芳 絵（工学院大学准教授）

主 催 本学教育推進研究課題「ことばを聴く ことばを育む
— 複言語・複文化主義と教養教育 —」

共 催 本研究所

公開研究会

二〇一八年七月二六日（木）午後四時四〇分～午後六時一〇分（≪本学人文館A五四九大会議室）

「社会主義政権下におけるポーランド・ポスター——比喩的表現の効果と変遷——」

報告者 折 笠 芽 衣（本研究所客員研究員）

〈共同研究「多民族社会における宗教と文化」主催〉

公開シンポジウム

二〇一九年一月二六日（土）午後一時三〇分～午後四時三〇分（≪本学講義館C三〇八視聴覚教室）

「観光人類学の新展開——『ホスト・アンド・ゲスト』の磁場を越えて——」

報告1 『『観光の人類学』で問うべきこと——『文化／社会』の議論の次に——』

講師 土 井 清 美（中央学院大学非常勤講師）

報告2 「観光における人類学的実践——「文化のコンサルタント」になれるのか——」

講師 田 中 孝 枝（多摩大学専任講師）

コメンテーター 山下晋司（帝京平成大学教授／東京大学名誉教授）

橋本和也（京都市教員大学名誉教授）

公開研究会

二〇一八年六月一六日（土）午後一時～午後五時（Ⅱ本学人文館A五四九大会議室）

「インドにおける女性と家族」

報告1 「貧困を生きぬく―ワラーナシー近郊の下層民女性の声から―」

報告者 菅野美佐子（人間文化研究機構人間文化研究推進センター研究員）

報告2 「ブラタ儀礼にみる社会変化と女性―ボージプリー文化圏の事例から―」

報告者 八木祐子（本学教授）

報告3 「西インドの高齢女性にみる親密圏とネットワーク―新たなエイジングの模索―」

報告者 松尾瑞穂（国立民族学博物館准教授）

コメンテーター 押川文子（京都大学名誉教授）

〈共同研究「南島における民族と宗教」主催〉

公開研究会

二〇一八年六月二一日（木）午後四時二〇分～午後五時五〇分（Ⅱ本学講義館C二〇一教室）

「沖縄県中南部への移住者による墓の新築と故郷の墓」

報告者 早坂優子（多賀城市教育委員会事務局文化財課 文化財調査員）

四 所員消息 (二〇一八年四月—二〇一九年三月)

市野澤 潤 平 教授

論文「ゲストのセキユリティ化…「リスク社会」を生きるブーケット在住日本人ダイビング・ガイドの観光人類学」〔観光学評論〕第六卷第一号、二〇一八年三月)

論文「タイ東部における観光ダイビング産業の発展…南部と差別化された〈棲み分け〉の構造」(小河久志との共著、『多民族社会における宗教と文化』第二一号、二〇一八年三月)

翻訳 スミス、ヴァレン・L. 編著『ホスト・アンド・ゲスト…観光人類学とは何か』(橋本和也、東賢太郎との共監訳、ミネルヴァ書房、二〇一八年五月)

学会報告『「ホスト・アンド・ゲスト」再考…観光人類学の新展開に向けて』「ゲストに敵対するホスト…観光における対人接客サービスとホスピタリティを再考する」日本文化人類学会第五十二回研究大会・弘前大学 (二〇一八年六月三日)

学会報告『「ホスト／ゲスト」論再考…観光人類学3・0に向けて』観光学術学会第八回研究大会・二松学舎大学 (二〇一八年七月八日)

今 林 直 樹 教授

論文「ノスタルジーという概念をめぐる」(『ノスタルジーとは何か』、宮城学院女子大学人文社会科学研究所 編、翰林書房、二〇一八年一〇月)

論文「第一期フランス留学時代の黒田清輝—回想のフランス体験—」(『ノスタルジーとは何か』、宮城学院女子

大学人文社会科学研究所編、翰林書房、二〇一八年一〇月)

研究ノート「西表島に関する覚書」(『沖縄研究ノート』二十八号、二〇一九年三月)。

木村春美 准教授

研究ノート “If emotions are made, we can reframe L2 anxiety and empower learners.” (*Think Tank + : Bulletin of the JALT Mind, Brain, and Education SIG*, 4:5 13-17, 2018)

研究ノート “Hopes, beliefs, and challenges of a third – age L2 learner.” (*Think Tank + : Bulletin of the JALT Mind, Brain, and Education SIG*, 4:11 6-10, 2018)

監訳「日本の女学校に音楽専攻科を設立し発展させた経験について」『宮城学院資料室年報：信望愛』第二十三号(二〇一八年三月、十一—三十一頁)

講演「外国語学習の誤解を解く」宮城学院女子大学人文社会科学研究所 第二十七回 公開講演会(二〇一八年十一月十日)

学会発表 “Stress, emotion words, and anxiety reduction,” JALT Sendai, Aobaku Chuo Shimin Center, (Sendai) (二〇一八年四月二十二日)

学会発表 “L2 pronunciation learning: Instruction, perceived problems, and anxiety,” 3rd Psychology of Language Learning Conference, Waseda University (Tokyo) (二〇一八年六月八日)

学会発表 “Peer support group impact on an individual’s perception of agency,” 57th JACET International Conference, Tohoku Gakuin University (Sendai) (二〇一八年九月一日)

学会発表 “L2 classroom incivility coping, emotional intelligences, and emotion granularity,” British Association of Applied Linguistics Conference 2018, York St. John University (United Kingdom) (二〇一八年九月六日)
学会発表 “Short-term study abroad targets 1st-year students,” JALT International conference 2018, Shizuoka Granship, (Shizuoka) (二〇一八年十一月二十六日)

九 里 順 子 教授

著書『ノスタルジーとは何か』(共著、翰林書房 二〇一八年一〇月)の「Iノスタルジーが自立するまで——「故郷」からの距離——」

論文「木下夕爾『昔の歌』——戦後の出発——」(『日本文学ノート』五三号 二〇一八年七月)

論文「木下夕爾『晩夏』——俳句的空間——」(『キリスト教文化研究所研究年報』五二号 二〇一九年三月)

書評「安西篤句集『素秋』」(『鬘』六七号 二〇一八年五月)

書評「歌集『夏至南風』伊良部喜代子」(『日本文学ノート』五三号 二〇一八年七月)

書評「前田霧人『新歳時記通信』第十一号」(『鬘』六八号 二〇一八年八月)

書評「川端善明『影と花 説話の径を』」(『鬘』六九号 二〇一八年十一月)

書評(一句評)「中里夏彦『無帽の帰還』」(『鬘』七〇号 二〇一九年二月)

書評「対中いずみ『水瓶』」(『鬘』七〇号 二〇一九年二月)

俳句「越えてゆく」(『鬘』六七号 二〇一八年五月)

俳句「三月の魚座」(『鬘』六八号 二〇一八年八月)

俳句「ゆく夏」〔鬘〕六九号 二〇一八年一月)

俳句「花も紅葉も」〔鬘〕七〇号 二〇一九年二月)

随筆「董からゴリラ」〔鬘〕六七号 二〇一八年五月)

随筆「へ在ること」のざわめき」〔鬘〕六八号 二〇一八年八月)

随筆「恋は水色の洋館」〔鬘〕六九号 二〇一八年一月)

随筆「私の中の少年少女」〔鬘〕七〇号 二〇一九年二月)

評論「詩の外包一 長い赤いきれを踏む」〔鬘〕六七号 二〇一八年五月)

評論「詩の外包二 紅の女たち」〔鬘〕六八号 二〇一八年八月)

評論「詩の外包三 数寄屋橋の夕映えに」〔鬘〕六九号 二〇一八年一月)

評論「詩の外包四 燃え上がるリズム」〔鬘〕七〇号 二〇一九年二月)

栗原 健 准教授

論文「バルタザール・シューマンによる『2つの森林説教』(1607年)——近世ドイツにおける環境神学の先駆——」(本学『キリスト教文化研究所研究年報』五一号、二〇一八年三月一日、五三—六九頁)

新刊紹介 Maeve Brigid Callan, *The Templars, the Witch, and the Wild Irish: Vengeance and Heresy in Medieval Ireland*. 『西洋中世研究』十号、二〇一八年二月三十一日、二二—三二頁—三三—三二頁)

Clifford Davidson, Ton Broos, and Martin Walsh (eds.), *Mary of Nemegeen: The ca. 1518 Translation and the Middle Dutch Analogue*, Mariken van Nuemeghen. 『西洋中世研究』十号、二〇一八年二月三十一日、二二—

三頁)

Carlos Andrés González-Paz (ed.), *Women and Pilgrimage in Medieval Galicia*. 『西洋中世研究』十号、二

〇一八年一月三十一日、二二二六—二二二七頁)

本学キリスト教講座

「おむすび一つで変わった人生—キリスト教が示す食べ物の力—」(二〇一八年六月二十八日、キリスト教セ
ンター「ヴェリタス」)

「これはしんどい宮沢賢治—キリスト教と心理学から見た彼のこころ—」(二〇一八年九月二十七日、キリス
ト教センター「ヴェリタス」)

「ハロウィーンってキリスト教と関係あるの?—中世ヨーロッパのちょっぴりこわい世界—」(二〇一八年
十月二十六日、キリスト教センター「ヴェリタス」)

「魔女裁判と戦ったキリスト者—フリードリヒ・フォン・シュペー神父の生涯と社会正義—」(二〇一八年
十一月二十二日、キリスト教センター「ヴェリタス」)

間瀬 幸江 准教授

研究発表「弱さのリーダーシップ『宮城学院クリスマスマーケット』にみる協同関係」(日本フランス語教育学

会二〇一八年度春季大会 教育実践報告 於慶應義塾大学三田キャンパス 二〇一八年六月二日)

研究発表『「トロイ戦争は起こらなご」日本語上演』(Giraudoux à la scène, hier et aujourd'hui, Colloque interna-

tional 7-9 juin 2018, Université de Pau et des pays de l'adour, 二〇一八年六月九日)

研究発表「『トロイ戦争は起こらない』新演出の意義 受容史から見るジロドゥの特異性」(研究集会「ドイツ占領下のフランス文化」 於名古屋大学文学部 二〇一八年九月二二日)

シンポジウム運営「シンポジウム『声を聴く 声をしるす』二一世紀教養教育考」(宮城学院女子大学教育推進研究課題「ことばを聴く ことばを育む―複言語・複文化主義と教養教育―」関連企画 宮城学院女子大学キリスト教文化研究所共催 二〇一九年一月一日)

研究発表「『聴くこと』の破壊力―共同研究の磁場」(シンポジウム『声を聴く 声をしるす』シンポジウム開催趣旨説明として 二〇一九年一月一日)

清水 禎 文 教授

講演「近代日本プロテスタント人間形成史 札幌農学校につらなる人々の信仰と学問」宮城学院礼拝堂(二〇一八年六月二七日)

講演「レインブラントの目」宮城学院女子大学礼拝堂(二〇一八年十一月二日)

シンポジウム「戦間期の教育政策変容から現代を問う」(東北教育学会第七六回大会二〇一九年三月一六日)

研究会報告「地域における情報回路と身体化する国民精神 ―昭和恐慌から国民精神作興運動、そして満蒙開拓青少年義勇軍送出へ―」宮城学院女子大学人文社会学研究所(二〇一八年一〇月二四日)

新免 貢 教授

論文「時代の文脈の中で『ヨハネの黙示録』を読み直す試み」(本学『キリスト教文化研究所研究年報五二号』二〇一九年三月三十一日、一―五十一頁)

著書

〔共著〕『逆まく怒濤をつらぬきて』東京シュール出版、二〇一八年十月二十日

〔単著〕『新』キリスト教入門（1）『燦葉出版社、二〇一九年二月四日

研究発表

「ヒエロニウムス研究によって際限なく開かれたテキスト分析の新たな地平——加藤哲平著『ヒエロニウムスの聖書翻訳』（教文館、二〇一八年）に触発されて——」（第二回京都ユダヤ思想学会関東大会聖書翻訳合評会、二〇一八年十月二十七日、慶應義塾大学日吉キャンパス来往舎二階大会議室）

講演「生きていたのだという証明書」（二〇一八年度酪農学園大学秋季キリスト教教育強調週間、二〇一八年十月三十日、酪農学園大学黒澤記念講堂）

関西神学塾／政治・宗教思想研究会講座（日本基督教団西宮公会教会資料室）

「みんなの『ヨハネ黙示録』を読み直す試み（1）」（二〇一八年二月二十四―二十五日）

「みんなの『ヨハネ黙示録』を読み直す試み（2）」（二〇一八年四月二十四―二十五日）

「みんなの『ヨハネ黙示録』を読み直す試み（3）」（二〇一八年六月二十九―三十日）

「みんなの『ヨハネ黙示録』を読み直す試み（4）——黙示録二―十三章を中心に——」（二〇一八年九月二十八―二十九日）

「自著『新』キリスト教入門（1）案内——何百冊目かの入門書ではない——」（二〇一八年十二月十四日）

「テキスト分析の可能性、限界、著者問題」（二〇一八年十二月十五日）

「第一ヨハネ一章一―四節、第一コリント二章九節、トマス福音書十七の背後に想定される論争——肉的イエスカ靈的イエスカ——」(二〇一九年一月二十五―二十六日)

キリスト教入門講座(日本基督教団西宮公会同教会入門講座)

『イエス感染症』とは何か(二〇一八年六月三十日)

「キリスト教会とカルト宗教団体、そして死刑執行」(二〇一八年九月三十日)

「広瀬健一死刑囚(サリン散布実行犯)の手記『学生の皆様へ』」(二〇一八年十二月十六日)

宮城学院女子大学生涯学習講座(本学講義館C四〇七号教室)

「社会的障壁を超えゆくイエス「感染」症く浄・不浄の区別の撤廃く」(二〇一八年五月十九日、六月九日)

「足元にいかようにも広がりゆく「神の国」」(二〇一八年六月二十三日、七月七日)

「性差を超えた人間理解く男と女ということはないく」(二〇一八年七月二十一日、八月四日)

「愛敵の論理く古代オリエント世界から現代までく」(二〇一八年九月二十二日、十月二十日)

「集団メシア主義くみんなで社会を転換するとう画期的な思想く」(二〇一八年十一月十日、十一月二十四日)

「ユダ福音書く怒りとユーモアく」(二〇一八年十二月八日、二十二日)

調査活動

東日本大震災後の石巻区域、被災者の現況に関する聞き取り調査(二〇一八年六月五日―六日)

日本におけるカルト宗教団体の動向に関する実地調査(日本脱カルト協会総会春季大会、二〇一八年三月二

三日、大阪大学豊中キャンパス、大阪府豊中市)

オウム真理教関連事件、被害者、並びに、カルト宗教脱会者の現況に関する実地調査(日本脱カルト協会夏季大会、及び、日本脱カルト協会主催公開講座「オウムのすべて——事件をふりかえって——そしてこれから——」二〇一八年八月二十四-二十五日、立正大学品川キャンパス)

田中一裕 教授

論文「Dependence of phase setting on the amplitude of square – wave and pseudo – sinusoidal temperature cycles in the circadian eclosion rhythm of the onion fly, *Delia antiqua*」(Physiological Entomology, Wiley, 二〇一八年二月)

論文「Northward expansion of the bivoltine life cycle of the cricket over the last four decades」(Global Change Biology, Wiley, 二〇一八年二月)

論文「Sexual identity and sexual attractiveness of a gynandromorph of the lawn ground cricket, *Polemionobius mikado* (Orthoptera: Trigonidiidae)」(Entomological Science, Wiley, 二〇一八年二月)

その他「女子大学の人づくり^⑳ 多角的な視点と学び続ける力を養う」(仙台経済界、二〇一八年九月)

その他「女子大学の人づくり^㉑ 現代社会に欠かせない能力を養う」(仙台経済界、二〇一八年二月)

学会報告「青森県弘前市におけるマダラスズの羽化の早期化」東北昆虫学会、清温荘(二〇一八年七月二八日)

学会報告「ハラクロモリグモの歩行活動リズム」日本蜘蛛学会、広島大学(二〇一八年八月二六日)

学会報告「光周期がマダラスズの雌性先熟の発現におよぼす影響」日本昆虫学会、名城大学(二〇一八年九月八

日)

講演「家の周りを観察しよう」いきいき学園石巻校(宮城県福祉協議会)、東松島市コミュニティセンター

(二〇一八年一月二二日)

天童 睦子 教授

著書『教育社会学事典』日本教育社会学会編 編集委員 (第Ⅲ部 第2章 家族担当) 執筆分担 概説・現

代家族と教育の諸相 二八六―二八九 「ジェンダーと文化的再生産」三三八―三三九頁、(丸善出版、二

〇一八年一月三一日)

論文「ジェンダー視点からみた広域避難と女性―東日本大震災における支援と女性たちの協働」(浅野富美枝と

の共著)(第四回震災問題研究交流会「研究報告書」八一―八六頁、震災問題研究ネットワーク、日本社会

学会震災問題情報連絡会、二〇一八年一〇月)(インターネットによる公開)

論文「グローバル化時代の大学教育と『教育の危機』―教育社会学とフェミニズムの視点から」(『キリスト教文

化研究所研究年報』第五二号、二〇一九年三月)

研究紹介「教育の危機の編纂と監訳という学問的ワーク」“Academic Work of Crisis in Education, as an editor

and translator” (『日英教育研究会ニューズレター』Vol. 4, No. 1, 八―一頁、pp. 31-32)

書評「子育て世代のソーシャル・キャピタル」(石川由香里・杉原名穂子・喜多加実代・中西祐子著)(『教育社

会学研究』第一〇三集、一五六―一五八頁、二〇一八年一月)

学会報告「震災後の女性の経験とジェンダー問題の再構築」国際ジェンダー学会二〇一八年年次大会、聖心女子

大学、二〇一八年九月二日

学会報告「批判的フェミニストペダゴジーの展開と可能性」日本教育社会学会第七〇回大会、佛教大学、二〇一八年九月三日

学会報告 “Disaster Diaspora: Women’s Empowerment in Japan”, World Social Science Forum (WSSF)

Poster Presentation, (with Fumie Asano), 福岡国際会議場、二〇一八年九月二八日

シンポジウム講演「子育ての窓をひらく 社会へ、家庭で、私は」葛飾区子ども家庭支援課・NPO法人葛飾区子育てひろば「いろは」共催、健康プラザかつしか、二〇一八年九月一三日

公開シンポジウム「東北におけるミッション系女子教育の社会史」(企画・趣旨説明)(宮城学院女子大学開設七

〇周年記念ブレ企画) 宮城学院女子大学、二〇一八年十一月二四日

公開シンポジウム「女性と防災…次世代につなぐ協働の実践へ」基調講演「宮城発! 元気が出る女性学『女性が語る東日本大震災』の分析から」仙台市男女共同参画推進センター(エルパーク仙台)ギャラリーホール、

二〇一九年一月二六日

八木 祐子 教授

論文「信仰と儀礼」(『インド ジェンダー研究ハンドブック』粟屋利江・井上貴子編第十一章「暮らし」編集委員、東京外国語大学出版会、一四七〜一六二頁、二〇一八年三月)

研究ノート「女性の儀礼と祭り」(『インド文化事典』、インド文化事典編集委員会編、丸善、四一四〜四一五頁、二〇一八年一月)

「変わる住まい」『インド文化事典』、インド文化事典編集委員会編、丸善、四二〇～四二二頁、二〇一八年一月）

コラム「民謡」『インド文化事典』、インド文化事典編集委員会編、丸善、四三九頁、二〇一八年一月）

研究発表「プラタ儀礼にみる社会変化と女性―ボージプリー文化圏の事例から―」（宮城学院女子大学付属キリスト教文化研究所、共同研究「多民族社会における宗教と文化」主催 公開研究会『インドにおける女性と家族』、二〇一八年六月一六日）

海外調査 北インド、ウッタール・プラデーシュ州アザムガル地区 二〇一八年八月三一日～二〇一八年九月一〇日

日「北インド、ボージプリー文化圏の民謡に関するジェンダー分析」に関する調査（科学研究費基盤C）

吉村典子 教授

論文・報告集

「ヴィクトリアン・タイルに色と艶をあたえたマジョリカ」『和製マジョリカタイル―憧れの連鎖』(LIXIT) 出版、二〇一八年十二月）

「マジョリカ―イギリス、日本（宮城）、アフリカ（ザンジバル）」『近代仙台研究会報告集』（近代仙台研究会、二〇一九年二月）

「リチャード・ハミルトン《いったい何が、今日の家庭をこんなにも違ったもの、こんなにも魅力的なものにしているのか》再考」『宮城学院女子大学芸学部英文学会誌』第四十七号（宮城学院女子大学英文学会、二〇一九年三月）

「絵画と空間―バーン・ジョーンズの《黄金の階段》とグロヴナー・ギャラリーをめぐる」『人文社会科学論叢』第二十八号（宮城学院女子大学付属人文社会科学研究所、二〇一九年三月）

学会口頭発表・招聘講演会

「リチャード・ハミルトンとラックス―一九七四年の日本滞在を中心に」美学会全国大会（関西大学、二〇一八年十月）

「ヴィクトリアン・アートの世界―その革新とロマンス」宮城学院女子大学英文コース会（二〇一八年十一月）

「作品と空間との関係性―モリスとバーン・ジョーンズの平面作品」ウィリアム・モリス研究会・意匠学会デザイン史分科会（日本女子大学、二〇一八年十二月）